

届けよう市民の声を、関西から世界へ ～G20 と市民社会の役割～

2019年2月3日にワン・ワールド・フェスティバル(大阪市立北区民センター会議室)にて、G20 とエンゲージメント・グループの役割について紹介するトークセッションを近畿労働金庫地域共生推進室との共催で開催しました。

「G20 大阪サミット」の開催が6月28・29日に予定され、持続可能な開発目標(SDGs)の達成が重要視される中、世界のリーダーに市民の声を届けることはとても大切となっています。あわせて、それを担う市民社会(NGO・NPO・労組・生協等)の役割は重要といえます。

そこで、本企画では、あまり知られていないG20のエンゲージメント・グループや関西の市民活動の動きを紹介するとともに、声を届けることの意義を学び、NGO・NPO・労働組合からの報告と問題提起を通して、どのような提言ができるのか、参加者と一緒に考える機会としました。会場は、50名の定員を越えて約70名の参加者が集い、関心の高さが伺えました。

《トークセッションの内容》

□ キーノートスピーチ

- ① 三輪 敦子さん(ヒューライツ大阪所長) 「G20サミットとエンゲージメント・グループ」資料1
- ② 岩崎 裕保さん(開発教育協会監事) 「市民の声でSDGsをつくる！」資料2

□ トークセッション

- ◎ 熱田 典子さん(関西NGO協議会 副代表理事) 「KANSAI-SDGs 市民アジェンダの取り組みとG20」資料3
- ◎ 村井 琢哉さん(山科醍醐こどものひろば 理事長) 「子どもの貧困は社会の貧困、社会の貧困は世界の課題」資料4
- ◎ 香川 功さん(連合大阪 副事務局長) 「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて 資料5

□ フロアトークセッション

3人程度のグループになって、関西から世界のリーダーに「提言したい」ことについて意見を出し合い、全体で共有しました。



《 トークセッションの様子 》

□ キーノートスピーチ

6月の「G20 大阪サミット」に不可欠な要素にもかかわらず、あまり知られていない「エンゲージメント・グループ」の役割に焦点を当て、とくに市民社会(C20)、労働組合(L20)を中心に紹介がされました。そして、C20、L20 では日本や世界の市民社会(NGO・NPO・労組・生協等)が集まり、G20を通じて市民の声を届ける意義について、SDGsとも照らし合わせて説明されました。



三輪 敦子さん(ヒューライツ大阪・所長、
2019 G20 サミット市民社会プラットフォーム共同代表)



岩崎 裕保さん(開発教育協会・
監事、関西NGO協議会・監事)

□ トークセッション

続いて、国際社会と地域社会、先進国と途上国が持続可能性という点で結びつき、持続可能な開発目標(SDGs)の達成が重要視される中、社会課題への解決をめぐり日々活動しているNGO・NPO・労働組合から、問題提起とどのような提言ができるのかについて、お話しいただきました



熱田 典子さん(関西NGO協議会・副代表理事、
アジア協会アジア友の会・副事務局長)
「みんなの声を届けて良き社会を！」



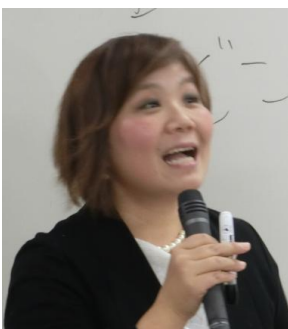
村井 琢哉さん
(山科醍醐こどものひろば・理事長)
「子どもの貧困解決は、子どもたちとの未来づくり」



香川 功 さん(連合大阪・副事務局長)
「誰もが公正な労働条件のもとで、
労働の質の向上をめざす！」

□ フロアトークセッション

参加者は3名程度のグループに分かれて、「理想の社会に向けて、どこにどのような声を届けて、社会を変えたいか」について話し合い、最後に発表・共有をしました。



永井 美佳さん
(大阪ボランティア協会・事務局長) (当金庫地域共生推進室・室長)
二人で、セッションコーディネーターを務めました

